

第9回目

大井田 光明寺 松原大師

発行責任者

員弁組連研部会長

蓮成寺 藤田 智善

第9回目のテーマ

「私は神さまも仏さまも信じていますが、それではないのですか↓神さま仏さまについてあなたの思いをお話ください」

難しいテーマながら活発にお聞かせいただきました。まず御礼申し上げます。

親鸞聖人は、人の願いや行動には必ず自分の都合が混じると説かれ、それを「雑毒（ぞうどく）の善」と仰せです。

こんなご経験はありませんか。たとえば、お土産を渡しても礼が一言だけで拍子抜けということもあるでしょう。

最初は崇高な願いを起こしても、知らぬ間に自己を正当してしまい、純粹な心で成し遂げることは困難です。神仏への感謝も同様でしょう。

また、良かれと思つてしたもの、かえつてマズイ結果を招くこともありませぬ。

むしろ、過剰に善を求める我欲が他者を抑圧し、排除することになるのです。

悪に迷うのではなく善に惑う―これがわたしたちの日常生活そのものではないでしょうか。

神仏への要求は、この人間心の投影でありましょう。〈こうあるべき〉との思い込みこそが、じつは自身を縛り、苦惱させます。

阿弥陀様の大悲の仏心は、そんな妄念妄想から我が身を解き放つ広大な願いのはたらきなのです。

自身の闇を破る智慧のお光です。具体的には南無阿弥陀仏と声の仏様となつて、わたしに至り届いてくだ



# 第1期 連研だより

月さいます。  
3 その仏の喚び声を聞く刹那に、氷が  
年水となるように煩惱は転ぜられま  
す。

2018 阿弥陀様の清浄な願心が我が身に満  
ち満ちて、難度海といわれる苦難の  
人生を生き抜く安らぎが得られるの  
です。

お寺とは、そのような身の安心を聞  
くために集う空間でしょう。ですか  
ら、わたしはお聴聞が好きで、各所  
のお寺に居場所を感じます。

ところで、お仏壇と神棚の有無に  
ついては両方アリが多数派でした  
が、片方とのお答えは神棚のみとい  
う方ばかりでした。

ここではバランスを取るため逆の  
例を紹介します。

（真宗門徒なので神棚はない）と  
いう方もおられます。

理由をお聞きすると、願い事をする  
必要がないだけでなく、穢れを忌み  
嫌うことは他者の排除につながり、

すべての人を平等に救う浄土真宗の  
み教えと相容れないとおっしゃいま  
す。

これはテーマの「いけないのですか」  
に関連します。多様な価値観が認め  
られることは大切ですが、何をして  
もよいのであれば、宗教が生き抜く  
力とならないこともまた事実です。

それこそ（こうあるべき）というこ  
とはありませんが、ここはぜひ共に  
熟慮してみましよう。

ともかくも、お仏壇もお寺も、そ  
こに手を合わせ、頭が下がり、お念  
仏申す人がなければただの家具や建  
物に過ぎません。

お念仏の日暮しの中で、我が身は仏  
身へと育てられてゆきます。

不思議ですね。阿弥陀様のお慈悲に  
抱かれて、大安心の人生を共に歩ん  
で参りましよう。

## A 会場 仏事作法 講師 徳力雅之 師

## 《仏事作法おさらい》 仏壇のお飾り 〈基本編〉

日常勤行聖典 P133 参照

・ 仏壇は朝・夕の礼拝を家族で感謝の  
おつとめをし、家族の心のよりどこ  
ろとしましろう。

・ お仏飯は、私のいのちが生かされて  
いることをあらわしています。

炊飯後は、まず仏壇へお供えします。

